

若葉台地区

きらっとあさひプラン

第3期 旭区地域福祉保健計画

平成28年度～32年度

地区別 計画

若葉台地区は、区の北端に位置し、帷子川の源流域である丘陵地を大規模開発した集合住宅団地です。団地中央には商店街や公共施設があり、歩車分離道路や、緑に囲まれた計画的な街並みが形成されています。



■めざす地区の姿

孫子老のまち若葉台を目指して～現在から未来へ～

連動する区計画の柱 2 安心して自分らしい生活ができる地域づくり

■目標A

向こう三軒両隣につながるコミュニケーション

■具体的な取組

○イベントの声掛けやあいさつなどにより、交流を深める

- ・地域の各種イベントに参加して顔見知りを増やす（自治会、棟委員、階段委員呼びかけ）
- ・（団地内各棟の）上下左右階の居住者と交流する
- ・若葉台ですれ違う人にあいさつする
- ・クリーンデーでの交流理解を深める
- ・近隣の人たちと、サークル活動を行う
- ・棟集会を活用した交流をする

○地域での孤立化を防止する

- ・孤立してしまう人を増やさない（高齢者、障がい者、ひきこもり）
- ・高齢者の人間関係づくりの促進
- ・既存の場の有効活用により、自助努力を支援する（友愛活動や民生委員などへの情報提供につなげる）
- ・回覧板の手渡し時にあいさつや情報交換をする

○情報の充実を図る

- ・自治会活動のPRを充実する（グループネットワーク促進、登録制度、有償活動など）
- ・（各棟の）階段委員が中心となり、回覧板の質を高める（重要な情報、お得情報、楽しい情報を定期的に行う）

○障がい児者への理解を深める

- ・地区社協がボランティアを募り、障がい児者に対する支援をしていく
- ・地域行事等で、既にあるグループの参加PRをしていく



夏まつり



障害者理解ふれあいフェスタ

■目標B

多世代交流の促進

■具体的な取組

○若い世代を対象とした取組を進める

- ・子育て支援を通じた多世代交流
- ・親子で選べる企画の実施

○子どもから高齢者が一緒に参加する取組の実施

- ・孫子老の日を充実させる（学校との連携、各自治会での展開）
- ・昔遊びなどを通じた多世代交流の実施
- ・多世代交流サロンの実施

○青少年から参画出来る行事を進める

- ・気軽に準備から参加できる青少年向けの行事の実施
- ・学校との交流を通して中高生に参加協力してもらう

○地域行事の継続及びそこへの参加の働きかけ

- ・多世代交流を意識した取組
- ・今ある取組や行事をPRし、参加者を増やす
- ・行事やイベントを多世代交流を意識した取組にする



多世代交流
みんなあつまれ



孫子老の日

■目標C

居場所づくり

■具体的な取組

○誰もが気軽に集える場所を作る

- ・自治会集会所を使う
- ・公社に施設提供の要請を行なう
- ・公園の有効活用を進める
- ・多世代が日常的に交流できる居場所を作る
- ・少人数でも集まって話ができる場所を提供する

○高齢者や障がい者が外出できる場所を作る

- ・自治会と老人会の協力体制の充実を図る
- ・老人会の加入者を増やす
- ・高齢者や障害者を対象とした昼食会等を実施する
- ・健康チェック、介護予防につながる担い手を増やす
- ・サークル活動の充実

○サロン活動を充実させる

- ・既存のサロンの活動団体が、更なる活動内容の充実を図り、地域への周知を広める



親と子のつどいの広場
「そらまめ」



自治会主催のサロン



プレイパーク

■目標D

ボランティアの育成～活動に参加しよう～

■具体的な取組

○ボランティア活動へのきっかけ作りをする

- ・自治会活動への参加を推進する
- ・経験者の力を発揮できる場を創出する
- ・幅広い年代の区民（住民）が参加可能となる仕組み作りをする
- ・簡単にできるボランティア活動を創出する
- ・ボランティアへのアフターフォローをする



孫子老の日

○児童生徒への働きかけをする

- ・学校教育の一環として、ボランティア活動に参加する仕組みを作る
- ・小学校5、6年生はジュニアボランティア活動、中高生は福祉委員になってもらう

○ボランティア情報の周知と共有をする

- ・ボランティア情報の発信と活動の見える化をする
- ・若葉台全体でボランティア登録などをして、各組織の行事ごとのボランティアを獲得しやすくする



赤い羽根共同募金



チャリティーバザー

若葉台全体の行事！



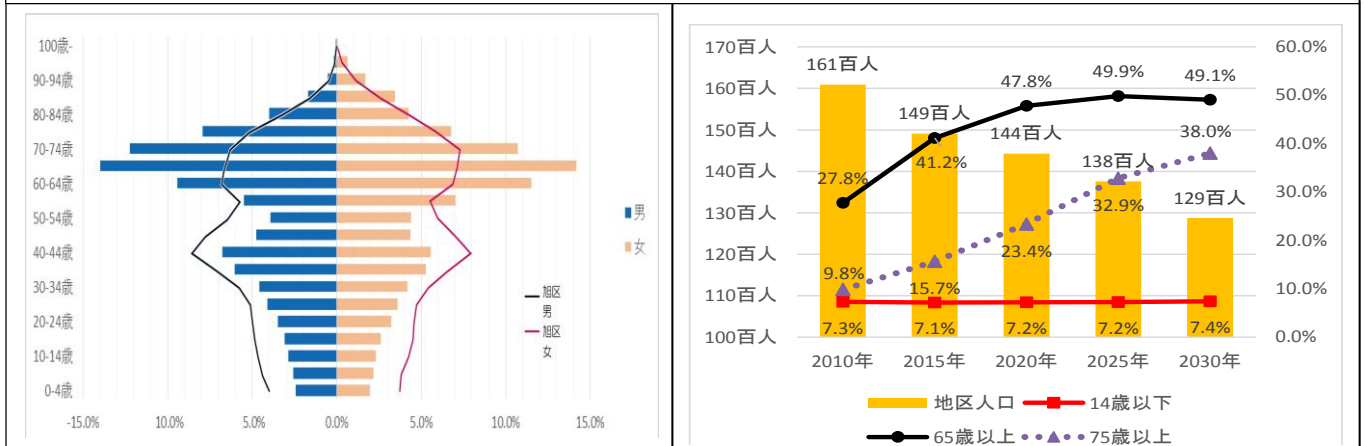
6月の高齢者交流会や7月の夏まつり、10月の大運動会や11月の文化祭など若葉台には多くの行事があり、多数の皆さんの参加があり世代を超えた交流の場がありますが、それらを継続していく事が大切と考え、地域全体で取組んでいます。



■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ65歳以上の層の比率が男女とも高く、55歳未満の層の比率が低くなっています。
- ・人口の推移では、この5年間で約1200人減少しています。高齢化率は41.2%で、区内でも高い地区のひとつです。
- ・世帯数はこの5年間でほぼ横ばいの状況です。また、世帯人員は2015年で2.22人/戸となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2020年で約14400人、2025年で約13800人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約47.8%、2025年で約49.9%となり、ピークをむかえると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

5年間で取組んだこと

○地域ニーズとしての「向こう三軒両隣」

- ・毎年3月に行われる高齢者等見守り事業等報告会は、各自治会の情報を共有出来る機会として引き続き開催し、安心安全のまちづくりのキーワードとしていく
- ・地域力を上げるために多くの地域の方々が知恵を出し合い、先駆的な取組を“若葉台”として進めていく

○分科会に、連合会長、防災担当等も参加してもらい、協力・連携の強化を図った

○情報収集シートの検討、第3稿まで作成

○わかばネット、NPO若葉台による情報交換会を開催

○3分科会は、専門化して検討するという意味ではよいのだが、参加者が分散し、少数化するため、議論が十分機能せず方向性が打ち出せない面もあった

- ・現行の分科会方式に限界があった為、課題をもう少し絞って検討していき、地域全体を俯瞰しながら検討出来る体制作りをしていく
- ・定期的に話し合いをもち、課題解決に向けて継続的な情報共有をしていく

■地区の福祉課題

- ・向こう三軒両隣の継続的推進
- ・超高齢化になり、介護予備軍が元気にいてもらう必要がある
- ・様々な情報がまちの中央に集中してしまっている
- ・老人会などの各団体に新たに入ってくる人が少ない
- ・若い世代の意見をくみ上げ、参加してもらう仕組みが必要
- ・中高生など学生がまちの活動に参加する機会が少ない
- ・ボランティア活動への協力者の育成

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

認可保育所

- ① 横浜市立若葉台保育園
- ② わかばの森保育園

放課後児童クラブ

- ③ 若葉台中央学童保育所

幼稚園

- ④ プレスクール若葉幼稚園
- ⑤ 若葉台第一幼稚園

親と子のつどいの広場

- ⑥ そらまめ

子ども

障害者

地域活動支援センター（地域作業所）

- ① 若葉台ぶんげいざ

高齢者

特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）

- ① トレクオーレ横浜 若葉台
- ② ヴィンテージ・ヴィラ横浜